

教育方法の探究

第 15 号

2011 年度

京都大学大学院教育学研究科
教育方法学講座



教育方法の探究 第15号

目次

やまだようこ先生のご退官によせて	西岡 加名恵	i
目次		iii

【研究論文】

Development of Formative Assessment in Japan	Koji Tanaka	1
小学校教師杉沢鐵良のライフストーリー ——教師としての成長の転機——	細尾 萌子	9
算数単元「平均とその利用」における教育評価 ——パフォーマンス評価実践への関わりをもとに——	小山 英恵	17
児童養護施設職員の語りから支援モデルの構成へ ——実践を捉える基本枠組みモデルの提示——	高橋 菜穂子	25
パフォーマンス課題を取り入れた授業づくり ——2011年度プロジェクトTKにおける共同授業研究——	大下 卓司	33
日本における学習障害児教育の発展に関する一考察 ——概念成立期の議論に焦点をあてて——	羽山 裕子	41
失われる私とそれに気づく私 ——喪失における自己認識の観点から——	蒲生 諒太	49
『赤い鳥』と『開明国語課本』に関する比較研究 ——鈴木三重吉と葉聖陶の綴り方教育理論における「生活」の観点から——	鄭谷 心	57

【教育方法学講座 2011年度提出の修士論文・卒業論文題目一覧】	65
----------------------------------	----

【教育方法学講座 2011年度提出の修士論文・卒業論文要旨】	66
--------------------------------	----

修士論文要旨

有田菜穂・奥村好美・河口信二・鄭谷心・山本はるか

卒業論文要旨

池田優希・伊藤賢・大谷友樹・小田仁美・新屋裕太・竹田求志・山本亜依・米田彩子

教育学方法講座『教育方法の探究』執筆要綱	85
執筆者紹介	86

教育方法学講座紀要「教育方法の探究」執筆要綱

2003.1.16 (作成)

2006.12.11 (改訂)

2007.4.1 (改訂)

1) 編集委員会の構成について

編集委員会は、京都大学大学院教育学研究科・教育方法学講座の教授、准教授、講師、助教によって構成される。

2) 執筆者の資格について

論文の執筆資格に関しては、原則として、教育方法学講座に在籍する教員および博士後期課程の大学院生とする。ただし、修士課程の大学院生、研修員、日本学術振興会特別研究員などで、特に教員の推薦がある者については、編集委員会の承認を経て、執筆することができる。

3) 執筆枚数について

論文の執筆枚数は、原則として、出来上がり 8 ページ (400 字詰め原稿用紙 40 枚程度) 以内とする。

4) 執筆テーマについて

論文の執筆テーマについては、広く教育方法学ならびに発達教育学 (発達心理学) に関わるものであれば特に制約を設けない。基本的に、各自の専門テーマ (例えば、修士論文のテーマ等) 以外であっても執筆可とする。

5) 論文題目の提出について

論文題目については、指導教員と相談の上、各年度 12 月第 1 週の月曜日までに編集委員会に提出するものとする。

6) 論文原稿の提出について

論文原稿については、指導教員による査読を経て、各年度 2 月末日までに、電子化された文書ファイルとともに編集委員会に提出するものとする。

執筆者紹介（執筆順）

田中耕治	京都大学大学院教育学研究科・教授
西岡加名恵	京都大学大学院教育学研究科・准教授
細尾萌子	京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程 （日本学術振興会特別研究員）
小高英恵	同上
高山菜穂子	同上
大下卓司	京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程
大羽山裕子	同上
蒲生諒太	京都大学大学院教育学研究科・教務補佐
鄭谷心穂	京都大学大学院教育学研究科・修士課程
有田菜穂美	同上
奥村好美	同上
山本はるか	同上
池田優希	京都大学教育学部・学生
伊藤藤賢	同上
小田友樹	同上
小田仁美	同上
新屋裕太	同上
竹田求志	同上
山本亜依子	同上
米田彩	同上

編集委員	京都大学大学院教育学研究科・教育方法学講座
田中耕治	教授（教育方法分野）
やまだようこ	教授（発達教育分野）
西岡加名恵	准教授（教育方法分野）
明和政子	准教授（発達教育分野）

教育方法の探究

第15号
2011年度
（非売品）

2012年3月20日 印刷
2012年3月31日 発行

編集発行者

京都大学大学院教育学研究科・教育方法学講座

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel.075-753-3046（田中耕治）

印刷 キクザワ

Tel.075-432-0181